



試奏 & 採譜：栗原 務

注目の楽器にWeROCKが迫る！

# Electro Harmonixから ギターがシタールになる 超ぶっ飛びエフェクター登場！

数多くの楽器の中から、特に注目のモデルを徹底チェックする“WeROCK 的 楽器試奏会”。今回は、エフェクターから紹介してみよう。エレハモから発売されたラヴィッシュ・シタールは、なんと通常のエレキ・ギターがシタールになってしまうという驚きのエフェクターだ。さっそく隅々まで解剖してみたぞ！

## Electro Harmonix Ravish Sitar ¥44,100

- 外形寸法：144(幅)×60(高さ)×119(奥行き)mm ●重量：600g
- 専用アダプター付属

### ラヴィッシュ・シタールとは？

洋邦問わず、ロック・バンドが取り入れている民族楽器に“シタール”というものがある。いかにもエスニック的なサウンドが印象的な楽器で、もともとは北インドの楽器だが(右上カコミ参照)、エレクトリック・シタールというものあり、プロのギタリストでもレコーディングなどで多く使用されている。しかし、そのエレクトリック・シタールでさえ複数の弦が張ってあったり、“取り入

れてみたいけど、なかなか手が出ない……”というギタリストも多いことだと思う。

ここで紹介するラヴィッシュ・シタールは、そんなギタリストが待ち望んでいたエフェクターなのだ。簡単に言ってしまうと、通常のエレキ・ギター(なんと、ベースもいける!)に、普通のエフェクターと同じように接続するだけで、ギターの音がシタールっぽくなってしまおうというエフェク

●シタールとは？●  
◎インドの民族楽器で、全長1.2m程度ある弦楽器だ。弦は、20本前後張られており、リードと呼ばれる実際に弾く弦と、フレットの下にある共鳴する弦に分かれている。これにより、“ビヨ～ン”という独特の音色が奏でられ、いかにもエスニックなサウンドが鳴る。プレイ的には、フレットもあり、弦をピッキングしたりチョーキングしたりと、チューニングの違いはあるが、ギターに近い感覚を持った楽器だ。ジミー・ペイジらが取り入れたことで、ロック・シーンでも注目されることになった。

ターだ。さらに、リード弦と共鳴弦の音色や音量を個別にコントロールできたり、共鳴する弦のスケール(メジャーやマイナーなど)を決められたり、その他にも盛りだくさんの機能がある。すなわち、このエフェクターは、ギターが、本物のシタール以上にさまざまな音色になってしまうという画期的なモデルなのだ。さっそく、その詳細に迫ってみよう。

**DRY LEVEL**  
エフェクトがかかっていない音のレベルを調整するツマミ。目一杯、左に回した時は、エフェクトの音のみ出力される

**LEAD LEVEL**  
MAIN OUTから出力されるリード音のレベルを調整するツマミ。

**SYMPATHETIC**  
このコントローラーで、共鳴弦のヴォリュームを決定。

**LEAD**  
弾いた時に鳴るシタールならではの、“ビヨ～ン”という響きを調整するツマミ。右に回していくとキラキラした陶酔サウンドになる。

**SYMPATHETIC**  
こちらは、共鳴弦の“ビヨ～ン”という響きを調整するツマミ。

**MODE/PRESET**  
3つの機能を持ったノブ。回していくとプリセットを選べ、3秒間押すとプリセットが保存される。また、押すたびに、PRESET、KEY、DECAY MODULATION、PITCH BEND、Qという各モードに切り替わる。

**2つのOUT**  
ドライ音とリード音、そして共鳴弦の音を出力するMAIN OUTの他、共鳴弦の音だけを出力するSYMPATHETIC端子を装備。SYMPATHETIC端子につないだ場合は、MAIN OUTから共鳴弦の音は自動的に出力されなくなる。

**PRESET**  
このフット・スイッチにも3つの機能が搭載されている。通常は、押すとプリセットが決定する。プリセットが選ばれている場合は、次のプリセットに切り替わる。KEYモード時は、このスイッチを踏んだままにするとキーをカスタマイズ可能となる。KEYモード以外の場合は、踏んだままにすると、なんと共鳴弦の音が鳴ったままのフリーズ・モードになる。

**BYPASS**  
エフェクトのオン/オフを切り替えるフット・スイッチ。

**3つの端子**  
インプットの他、エクスペッション・ペダルを2個接続可能。詳細は、次ページを！

# プリセットだけでも、かなり使える音色が選べる!?

“本物のシタールも弾いたことがないのに大丈夫だろうか?”と思う方も多いだろう。しかし、ラヴィッシュ・シタールには、あらかじめ使えるプリセットが10個用意されているので音作りが苦手な人でも安心だ。プリセットを選んで音を出すだけでも、ラヴィッシュ・シタールのサウンドを十分に堪能することができる。

プリセット1~3は、これぞシタールというベーシックなサウンドのプログラムで、適度にバランスされたリードと共鳴弦のサウンドが心地よく、アルペジオなどのバックギンから単音のメロディやソロ・プレイまで幅広く使うことができるサウンドだ。プリセット1~3のおもな違いは、共鳴弦のスケールとキーの設定で、それぞれEメジャー、Aマイナー、Eエキゾチックという設定になっている。ちなみにエキゾチックというのは、バイラヴァ音階と呼ばれるインド音楽で使われるスケールで、メジャー・スケールの2度と6度を半音下げた音階になっている。

プリセット4~5は、リードのヴォリュームを0にした共鳴弦だけのプログラム。共鳴弦のビョーンという響きは抑え目で、モワーンといったよ



↑通常のプリセット切り替えは、左側のフット・スイッチを押していけば順番に切り替わってくれる

うな柔らかい響きになっているのが特徴だ。このプリセットは、コード・トーンなどにちょっとした余韻を付けたい時などに使ってもおもしろそう。

プリセット6も、モワーンとした柔らかい響きを持っているが、こちらはリード音も加わったサウンドになっている。

プリセット7~8は、共鳴弦のヴォリュームを0にしてリード音だけにしたサウンドで、共鳴弦の音がカットされているため音の余韻は少なくド



↑白いつまみを回していくことでプリセットの切り替えが可能。決定する時は、左のフット・スイッチを踏めばOK

ライに仕上がっている。7よりも8のほうがややビョーンといったレゾナンスが強めだ。

プリセット9は、リードのヴォリュームを0にした共鳴弦のサウンドだけのプログラムだ。ビョーンといったレゾナンスが残響感とともに耳に残る。

10は、リード&共鳴弦ともにビョーンといったレゾナンスをやや抑え目に設定したプログラム。くせが少ないので、どんなアンサンブルにも似合いそうなサウンドといえるだろう。

## 各モードでの違いはなに!?

MODE/PRESETエンコーダー・ノブを押すと、KEYモード/ディケイモード/モジュレーション・モードという音作りのための3つのモードを切り替えることができるようになっている。

KEYモードは、入力した音に対して共鳴弦が音楽的に響くように設定するモードで、メジャー/マイナー/エキゾチックの各スケールと12個のキーの組み合わせで設定する仕組み。

ディケイモードは、リード音の減衰時間を設定できるモードで、ミョーンといったレゾナンスの長さの調整が可能だ。

モジュレーション・モードは、共鳴弦のサウンドに対するモジュレーションを調整することができるモードで、奥行きのあるサウンドに上げることができる。

また、これらとは別にPRESETフット・スイッチを踏んでいる間は、フリーズ・モードに突入し共鳴弦のサウンドをずっと鳴り響かせることができるようになっている。シンセのパッド・サウンドのような使い方もできるし、フリーズ中でもコントロール・つまみによって音色を変化させることができるのがおもしろい。



↑白いつまみを押すことでモードの切り替えが可能。回せばプリセット、押せばモード……という切り替えコントローラーだ

## エクスペッション・ペダルをつなげて、さらに拡張!



↑通常のインプット/アウトプットの他、エクスペッション・ペダルを接続できる端子が2つ用意されている

ラヴィッシュ・シタールには、PITCH端子とDRONE端子というふたつのエクスペッション・コントロール用の端子が用意されている。これらにエクスペッション・ペダルを接続することによって、より幅広い表現をすることが可能になるのだ。

まずPITCH端子だが、これはペダルでリード音のピッチ・アップが行なえるというもので、シタール特有の強く押さえた時の音程がアップするサウンドと同じ効果を作り出すことができるようになっている。ピッチ・アップは共鳴弦には作

用しないというのがポイントで、音程が変化する様は本物のシタールそのものだ。ピッチ幅の設定も行なえるようになっていて、半音単位で+1オクターヴまで設定することが可能だ。

DRONE端子は共鳴弦のコントロールを行なうもので、つまみを上げた状態では共鳴弦の音量は0。踏み込んでいくと徐々に音量が上がり、同時に共鳴弦をフリーズ状態にすることができるようになっている。もっとも踏み込んだ状態では、SYMPATHETIC LEVELノブで設定した音量になるというわけだ。

### 総評：どんな場面においても使えるサウンドを生み出すことができる!

これまでもシタール的なサウンドが出るエフェクターは存在しているが、ここまでリアルなサウンドを作り出してくれるモデルというのはおそらくラヴィッシュ・シタールが初めてではないだろうか。飛び道具的なサウンドを作り出すのではなく、どんな場面においても音楽

的にアンサンブルの中で使えるサウンドを生み出すことができるのがラヴィッシュ・シタールのすごいところで、CORALのようなエレクトリック・シタールの代わりとしても充分に使うことができる。また、演奏するにあたって特別な奏法テクニックを必要としないというのもい

い。

サウンド・メイキングに関してもかなり細かく行なえるようになっていて、リードと共鳴弦を別々に出力することもできるので、共鳴弦だけにディレイをかけた他エフェクターと組み合わせたい音作りもおもしろそうだ。

web (rockinf.net) と連動!

# Ravish Sitarにピッタリのフレーズ教えます

ラヴィッシュ・シタールが、どれだけぶっ飛びエフェクターかはわかってもらえたと思うが、問題となるのは“いったい、どういうフレーズを弾

けばいいの?”というプレイするうえでの課題だ。ここでは、ラヴィッシュ・シタールのセッティング例とともにピッタリなフレーズを掲載してみた。さ

らに、WeROCK サイトでは、ラヴィッシュ・シタールを使った、そのフレーズも聴けるようにしてある。ぜひ、参考にしてほしい!

## インド音楽で使われる音階を使用したフレーズ

インド音楽で使用される、バイラヴァ音階を使用して作ったのがこのフレーズだ。スケールをただ上下しているだけなのだが、それだけでもラヴィッシュ・シタールならではの特徴あるサウンドのおかげで、タージマハルが目の前にあるようなインドの雰囲気をしっかり出すことができる。音作りのポイントとなっているのは、共鳴弦

のビョーンといったサウンドを強調している点だ。共鳴弦の余韻もしっかりと出ているために、単音でプレイしているにもかかわらずアルペジオをプレイしているような広がりのあるサウンドになっている。ちなみに、エフェクター側のキーとスケール設定は、Eのエキゾチック・スケールに設定している。



↑TIMBRE 側のSYMPATHETIC をかなり上げ目にして共鳴弦の響きを強調させるのがポイント

譜例1 E

## ロックでおなじみのフレーズも、このとおり!

続いて、Eのミクソリディアン・スケールを使ってフレーズしたのがこの譜例だ。ロックではおなじみのこのスケールでも、シタールのサウンドでプレイしてみるとインドっぽい雰囲気が出せるのがおもしろい。webで聴ける音源は、よりシタールっぽさを出すために、エクスプレッション・ペダルを使用して各ノート(音符)の頭でリード

音だけにバンド・ヴィブラートをかけている。これにより、シタールで弦を強く押さえた時のバンド・サウンドを再現することができるというわけだ。バンド・レンジは、踏み込んだ時に半音上昇するように設定している。ピッキングした瞬間にすばやく踏み込んですぐに戻すのが演奏上のコツだ。



↑webで聴けるサウンドは、エクスプレッション・ペダルを使用しているものだが、このセッティングでも雰囲気はバッチリ!

譜例2 E

## ラヴィッシュ・シタール+アルペジオ=!?

共鳴弦の余韻をうまく使うことによって、シンセのパッドふうのアルペジオ・サウンドを作ってみたのが、この譜例だ。音作りとしては、包み込むような柔らかさを出すためにシタール特有のビョーンといったレゾナンスをあえて控えめに設定しているのがポイントだ。音使いやコード進行も特にインドふうというわけではないが、ボトム

をAに固定しているために、共鳴弦のドローンが効果的なサウンドを作り出している。さらに、このフレーズに、音の広がり感を出すためにコーラスやディレイ、リバーブといった空間系のエフェクターも加えることによってドリーミー・サウンドを作り出している。ぜひ、webにて、実際の音色とフレーズを聴いてほしい!



↑今度は、TIMBRE 側のSYMPATHETIC を下げ目にして包むこむような柔らかさを演出するセッティングだ

譜面3 A E/A G/A A A E/A D/A A